

生きる力の 更なる育成を目指して

第59回全連小研究協議会岡山大会成功裡に終わる

平成19年11月8日(木)～9日(金) 桃太郎アリーナ(岡山県体育館)及び周辺会場

古くから太宰府と大和とを結ぶ交通の要衝として栄え、吉備文化の発祥地である岡山の地において、11月8日(木)9日(金)の2日間、第59回全国連合小学校長会研究協議会が全国から2805名の参加者を得て盛大に開催された。

第54回北海道大会から引き継ぐ大会主題における研究・実践の成果を総括し、次期香川大会からの大会主題につなぐ重要な大会となった。1日目は開会式・全体会の後13の分科会・分散会に分かれて活発な協議が行われた。また、2日目には「夢・目標、かかわり合い」を主題にしたシンポジウムが大原謙一郎氏、菅波茂氏をシンポジストに迎え、向山行雄調査研究部長の進行で行われた。当初シンポジストをお願いしていた木原光知子氏は10月18日急逝された。心よりご冥福をお祈りする。

閉会式には、「母さんの歌」を作詞・作曲の窪田聡氏のアコーディオン伴奏で合唱し、感動のうちに大会の幕を閉じた。

大会主題

新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる
心豊かな日本人の育成を目指す小学校教育の推進
——未来に夢を抱き、かかわり合いを深めながら生きぬく子供の育成——

開会式

- 1 開式のことば 小滝岩夫 大会副会長
- 2 国歌斉唱
- 3 あいさつ 池田芳和 大会会長
松原泰通 大会実行委員長
- 4 祝 辞 代読 文部科学省初等中等教育局教育課程課課長 牛尾則文様
岡山県知事 石井正弘様
岡山県教育委員会教育長 門野八洲雄様
岡山市長 高谷茂男様
- 5 来賓紹介
- 6 祝電披露
- 7 閉 式

学校を預かる者の自覚と責任

学校経営の基本と原則に立って

池田芳和 大会会長

教育改革が急激に進められ学校教育の課題が山積する中、平成14年度北海道大会以来6年間にわたり引き継がれた大会主題「新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる心豊かな日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の最終年度の大会になった。

振り返るとこの間、教育改革国民会議の提言に基づき、学校運営から学校経営にと校長の主体的なマネジメント能力が問われることが多く



なるとともに、地方分権化の中で権限が拡大し責任の重さが増してきた。この中で校長は望ましいリーダーシップの在り方を強く自覚し経営を進めてきた。

また、完全学校週五日制の実施と、いわゆるゆとり教育批判への対応としての二期制の実施、基礎・基本の徹底と学習指導要領の一部改訂を受けての「生きる力」をはぐくむ教育課程の見直しに取り組み、今年度実施された「学力・学習状況調査」では課題もあるがその成果を示すことができた。

不安定な世の中の影響を受け、子供たちの安心・安全が問われた時期でもあり、児童生徒の生命尊重及び問題行動やいじめ等人権教育上の課題が指導に求められた。

昨年度末、教育基本法の改正が行われ、新たに義務教育の目的、家庭教育の役割、学校・家庭・地域の連携とともに教育振興基本計画の策定が規定された。安倍内閣の下で教育再生会議が2度にわたる報告をまとめ、社会総がかりで教育の信頼の確立に向けた取組が提言された。

今年度は、特別支援教育の実施に続き、学校教育法、教員免許法、教育公務員特例法、地教法の教育関連三法案の成立など、めまぐるしく変化する課題に正対しつつ、魅力ある教育を目指して学校経営の改善が行われてきた。

人事考課制度の導入や処遇への反映を急ぐ教育委員会の姿が見られる中で、校長は教員の資質の向上に確実に取り組んできた。

今年度の岡山大会においては、岡山県校長会

の皆様が豊かなご経験と高い識見を基に時代の流れを踏まえつつも不易の大切さを重視し、意見表明や諸活動を積極的に進め、熱い思いの下「未来に夢を抱き、かかわり合いを深めながら生きぬく子供の育成」を副主題にし、日ごろの学校経営の成果を持ち寄り、多面的に研究協議を深めることになった。新主題の香川大会に繋がる実り多い大会になることを祈念したい。

さて、昨日、中教審の教育課程部会の審議のまとめが公表され、学習指導要領改訂への動きが加速されることになる。今日の教育改革は、ボーダレス化する経済社会、知識基盤社会における激しいイノベーション、我が国の文化や伝統の保持、国際人としての教養等、これからの社会に生きる人間がもたねばならない資質や能力の育成が背景にある。そのような社会に学校教育が適応することへの期待があり、学校教育の信頼の確立が強く求められている。

今大会の中で、学校を預かる者としての自覚と責任、学校経営の基本と原則に立って、児童生徒の健全な育成に努めている姿が論じられればと願っている。さらに、魅力ある教育課程の編成・実施・評価などのマネジメントシステムの確立、良い先生を育てるための経営、子供の姿で成果を示すとともに社会的責任の遂行など研究協議が活発にされることによって、校長会の学校教育にかける思いが信頼の確立に結実するものと信じる。

私たち全国連合小学校長会においては、改正教育基本法の下、新たな学校教育の構造を構築していくことが学校現場の仕事でもある。子供たちが21世紀に大きく羽ばたくためには、高い知力を持ち、日本人としての自信と誇り、夢や希望をもつことが大切である。その実現のため教育改革に率先して取り組み、我が国の学校教育の振興を図っていきたいと考える。本会会員におかれては、今後とも全連小の教育振興の活動と教育改革への対応にご理解いただき、ご指導・ご鞭撻を賜るよう切にお願いする。

終わりに、本大会の開催にあたり4年有余にわたって周到な準備と大会運営へのご配慮をいただいた、岡山県小学校長会長松原泰通先生をはじめ多くの岡山県校長会の先生方、中国地区校長会の皆様に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。また、ご協力いただいた文部科学省、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会をはじめ関係各位に感謝申し上げます。

本会のシンポジストとして予定していた木原光知子様は急逝された。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本研究協議会が所期の目的を達成し、研究成果が共有されることを祈念し挨拶とする。

「夢・目標、かかわり合い」

松原泰通 岡山大会実行委員長

「晴れの国・岡山」へようこそ。全国からご参集の2805名の校長先生方を心から歓迎する。

岡山大会は、第54回北海道大会以来6年目となった大会主題「新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる心豊かな日本人の育成を目指す小学校教育の推進」について研究協議するまとめの年であり、次の第60回香川大会に発展的に繋いでいく大会でもある。その意味でも、これまでの組織的な研究や実践を通して、開かれた学校づくりの推進、マネジメントの考え方を生かした学校経営など、多くの成果を上げてきたことを確認しておきたい。

急速な科学技術の進歩、情報化・国際化の進展、その一方で、先行き不透明な社会状況、人間関係の希薄化、豊かな体験の不足している状況、こうした諸々の課題を受け止め、激動の時代にあっても夢や目標をもち続け、自然、社会、人、文化などに積極的に働きかけて、「かかわり合い」という相互作用によって一人一人が成長の喜びを実感して自己実現を図れるようにし、自他を豊かにすることができる子供を育てていかなければならない。

これまで「生きる力」の育成を目指して研究に取り組んできたが、「生きる力」を一層具体

化し発展させるために、「人間力」という新たな視点から「人間力」に含まれる、主体性・自立性、自己と他者との関係、個人と社会との関係等の要素にも目を向けながら、「生きる力」の更なる育成を目指していくことにした。

これらのことから、岡山大会では副主題を「未来に夢を抱き、かかわり合いを深めながら生きぬく子供の育成」とした。愛知大会、神奈川大会など本主題でのこれまでの成果を踏まえ、「夢・目標、かかわり合い」をキーワードとして一層大会主題に迫り、次の香川大会からの新しい大会主題に繋げていきたい。

開催に当たり、ご指導・ご支援をいただいた関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

渡海文部科学大臣祝辞代読（要旨）

文部科学省初等中等教育
局教育課程課課視学官 牛尾則文様

第59回全連小岡山大会が盛大に開催されることを心よりお祝い申し上げます。

さて、昨年12月、約60年ぶりに教育基本法が改正されこれからの教育のあるべき姿、目指すべき理念が明らかにされた。この理念の実現のため今年3月の中教審答申を踏まえ、政府では副校長等の新しい職の設置や、教員免許更新制の導入等を盛り込んだ学校教育法、地方教育行政法、教員免許法等の改正案を国会に提出し本年6月に成立した。以上の教育3法の改正を受けて今後、教育内容の改善、教育条件の整備・充実により一層取り組んでいく観点から、文部科学省では平成20年度概算要求において、子供と向き合う時間の拡充と教員の適切な処遇を図るため、教職員定数の改善とメリハリある教員給与改定を要求している。

また、学習指導要領の改訂や国語力の育成、理数教育の充実などの総合的な学力の向上、少人数指導や習熟度別指導等の推進を図るとともに、豊かな心を育成するため体験活動の推進や道徳教育等の一層の充実を図ることとしている。このような取組を踏まえ、各地域や学校においても創意工夫を発揮し、常にその時点で最善と

考えられる教育が行われることを期待している。

本大会の成功と全連小のますますのご発展とご参集の皆様のさらなるご活躍を祈念して祝辞とする。

岡山県知事祝辞（要旨）

岡山県知事 石井正弘様

2800人を越える校長先生を全国からお迎えし盛大に研究協議会が開催されることをお喜び申し上げますとともに、県民を代表して皆様の心より歓迎する。

「快適生活県・岡山」の実現を目指して5カ年計画をスタートさせた。3つの基本戦略の第一に「教育と人づくりの岡山の創造」を掲げている。岡山県は教育県と言われてきた。家庭・学校と地域がなお一層連携して取り組んでいく。重要な課題として県政上も推進していく。

私は中央教育審議会の委員を務めている。教育の分権という話が出たが、私自身、地域のごことは地域に任せてほしいという考えである。人づくりが地域の喫緊の課題なので、互いに切磋琢磨し競い合って充実させていくことが重要である。その意味で、教育でも地方分権を進めてほしいと主張してきた。

この思いを皆様にも共有していただき、リーダーシップを発揮し、日本の、そして地域の未来を担う人材の育成に力添えをいただけるよう期待する。実り多い大会になることを祈念する。

岡山県教育委員会教育長祝辞（要旨）

教育長 門野八洲雄様

「晴れの国・岡山」へおいでいただいた皆様の心から歓迎する。

社会環境が大きく変化していく中で、児童生徒、保護者の意識や価値観等も多様化してきている。こうした変化に適切に対応し、生涯にわたって心豊かにたくましく生きていく力、そして豊かに活力ある社会を支えていく意欲と実践

力を備えた新時代を担う人材育成がますます重要になってきている。

現在、国をあげて教育改革に取り組んでいるところである。教育の目標が明確にされ、方法や内容が大きく変わっていかうとしている。

岡山県では教育を県政の最重要施策として取り組んでいる。平成13年に全国で初めて条例で11月1日を「岡山教育の日」とした。続く1週間を「岡山教育週間」と名付け、県民の教育への関心を高めたり、教育の充実を図ったりする様々な取組をしている。

県教育委員会としては国の教育改革を踏まえながら「新岡山夢づくりプラン」、「岡山教育ビジョン」に基づき、特に確かな学力と豊かな心の育成を改革の重要な柱として積極的に取り組んでいる。

本研究大会の成果が各地域において具体的な取組となり、今後小学校教育が新しい時代を拓くものになっていくことを大いに期待する。

岡山市長祝辞（要旨）

岡山市長 高谷茂男様

岡山市は平成21年政令指定都市を目指し、教育、経済、文化等いろいろな面で「岡山から日本を変える」という気持ちで頑張っている。

思いやり・優しさ等の美しい心を持ち、夢と希望のもてる日本人を育てていくことが一番大切なことであると考え、岡山市でも「美しい心の町岡山」として魅力ある町づくりをしていく。

政財官界や一般社会で様々な問題が起きているが、権利は主張するが義務は果たさないという民主主義の履き違えが戦後60年の中で起きてしまった。これは我々大人から変えていかなければならない。

これからの日本を築いていくために、校長先生方に本気で日本を変えていただきたい。私たち行政も努力する。この大会が成功裡に終わることを祈念する。

文部科学省講話（要旨）

初等中等教育局教育課程課

視学官 牛尾則文様

1 「生きる力」について

現行学習指導要領の「ゆとりの中で、生きる力をはぐくむ」ということについては、批判がなされてきた。しかし、これらの批判は、「生きる力」そのものの批判にはなっていない。

「生きる力」の育成、そして基礎・基本を確実に身に付けることは、非常に重要視されている。

教課審の結論としては、「生きる力」をはぐくむことは、今後も重要であり、新しい指導要領にも引き継ぐということである。

2 学校教育法の改正（30条第2項）について

学校教育法の改正の中で、学力の重要な三要素を、①基礎的・基本的な知識・技能の習得②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成③学習意欲とした。「生きる力」の背景となる基本理念が法律の条文として確認されたということである。

3 「生きる力」で重視している事項の課題について

子供の生活能力・学習能力・生活習慣や体力について課題があるとされている。この課題の背景には、次の点が挙げられる。

①「生きる力」の意味や必要性についての共通理解の不足②子供の自主性を尊重するあまり、教師が指導を躊躇すること③各教科の「習得」「活用」「探究」の三つの学習活動のつながり不足④知識・技能を活用する学習時間が不十分⑤家庭や地域の教育力低下への対応が不十分

これらをふまえて、学習指導要領の改訂の方向性が示された。

4 学習指導要領の改訂の方向性について

学習指導要領改訂のポイントは、以下の7点である。

①改正教育基本法等を踏まえた改訂②「生きる力」という理念の共有③基礎的・基本的な知識・技能の習得④思考力・判断力・表現力等の

育成⑤確かな学力の確立に必要な授業時数の確保⑥学習意欲の向上や学習習慣の確立⑦豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

5 教育課程の基本的枠組みについて

小学校については、国、社、算、理、体の授業時数を6学年合わせて350時間程度増やす。外国語活動（仮称）については、高学年で週1コマを新設し、総合的な学習の時間は、週1コマ程度縮減する。

授業時数の増加は、つまずきやすい内容の繰り返し学習や観察・実験、レポートの作成、論述等の学習活動の充実などが目的である。

来年1月中には、教課審答申をまとめ、指導要領の改訂に結びつけたい。

第1日 全体会

司会 中澤俊二 大会実行副委員長

- 1 本部報告
- 2 大会主題・研究協議会趣旨説明
- 3 大会宣言に関する提案

本部報告（要旨）

塩澤雄一 対策部長

○対策部

1 平成20年度文教施策・予算要望

文科省の平成20年度予算の概算要求の内容は、次の点で全連小の要望が生かされている。

- ① 3年間で2万人規模の教職員の定数改善
- ② 管理職や教職員の処遇改善

しかし、財務省からは厳しい意見が出されている状況である。全連小では、財務省の財政制度等審議会に対し、学校現場の要望を伝えていく。今月中に、総理大臣、閣僚、国会議員に対する要請活動を計画している。一方では、全連小独自の予算要望書を作成し、今後も要望活動を続けていく。

2 対策部の4委員会の活動状況

各委員会で教育諸条件の整備にかかわる調査を行い、現在、集計・分析・考察を行っている。結果については、研究紀要でお知らせする。

3 三地区対策担当者連絡協議会

協議会の内容は、「教員評価（人事考課）制度の現状と課題」「新しい管理職（副校長・主幹教諭・指導教諭）に期待すること」の2点である。各県の状況や今後への期待を中心に、活発な意見交換が行われている。

○調査研究部

所属の6委員会が、新たな教育改革に伴う諸問題について組織的・継続的に調査研究を進めている。年度末に研究成果をまとめ、各学校に配布する予定である。

三地区調査研究担当者連絡協議会では、「新教育課程の実施に向けた準備状況」「特別支援教育の実施に伴う諸課題について」を協議題とし、各県の状況や国への要望を中心に活発な意見交換を行い、今後の調査研究に生かしていく。

○広報部

「小学校時報」「全連小速報」「教育研究シリーズ」「全国特色ある研究校便覧」等の発行に全力を挙げている。また、ホームページの充実も図っている。

○庶務部、会計部

会員減少に伴う予算縮小の中においても、確実な活動と工夫を続けている。

大会主題・研究協議会趣旨説明（要旨）

渡辺康人 岡山大会研究部長

全国連合小学校長会は、第54回北海道大会から大会主題を「新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる心豊かな日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とし、組織的な研究と実践を重ね、多くの成果を収めてきた。

第59回岡山大会は、神奈川大会の成果を継承し、大会主題のまとめと香川大会へ橋渡しをする大会である。新しい大会主題で目指す「たくましく生きる日本人の育成」へ研究を発展させるため、副主題を「未来に夢を抱き、かわり合いを深めながら生きぬく子供の育成」とした。キーワードを「夢・目標、かわり合い」とし、

大会主題に迫る研究を深めることにした。本大会の研究協議を通じて、教育の新たな可能性を探り、保護者や地域の負託に応えていきたい。

<分科会・研究課題>

- 1 「学校経営」子供の夢や目標をはぐくむ学校経営
 - 2 「教育課程Ⅰ」豊かな心を育成する教育課程の編成
「教育課程Ⅱ」かわり合いを深めながら学ぶ教育課程の編成
 - 3 「現職教育」教職員の資質・能力を向上させる学校づくり
 - 4 「生徒指導」豊かな心を持ち、かわり合って生きぬく力を育てる生徒指導
 - 5 「人権教育」自立と共生を目指した人権教育の推進
 - 6 「健康・安全教育」たくましく生きぬく心と体をはぐくむ健康・安全教育の推進
 - 7 「学校・家庭・地域社会の連携」学校と家庭・地域社会が共にかわり合う新しい学校づくり
 - 8 「国際理解教育」国際社会を主体的に生きる資質や能力をはぐくむ国際理解教育の推進
 - 9 「情報教育」情報教育と学校の情報化の推進
 - 10 「環境教育」環境への豊かな感性と実践力を育てる環境教育の推進
- 特「教育課題Ⅰ」教育改革への取り組みを核とした学校経営
- 特「教育課題Ⅱ」今日的な課題に取り組む学校づくり



第2日 全体会

司会 中澤俊二 大会実行副委員長

1 研究協議のまとめ

2 大会宣言文決議

牧野泰三 大会宣言文起草委員長

◇ シンポジウム

研究協議のまとめ

渡辺康人 岡山大会研究部長

岡山大会では、北海道大会からの成果を引き継ぎ、子供の課題や教育改革の動向、さらには新しい大会主題へのつなぎなど、時代や社会の要請、そして主催県岡山の特性をふまえて「未来に夢を抱き、かかわり合いを深めながら生きぬく子供の育成」を大会副主題に設定した。

各分科会・分散会においては、研究協議のキーワード「夢・目標、かかわり合い」を核にして、子供に生きる力をはぐくむための校長の役割や指導性等、学校経営の在り方について協議を深めていただいた。

本大会では、一人一人の優れた経営実践と高い識見に基づいた質の高い協議において、実り多いものとなったことに深く感謝申し上げる。

各分科会・分散会の研究協議を通して、副主題の実現に向け、学校経営の責任者である校長がリーダーシップを発揮し、保護者や地域社会と緊密な連携を図りながら、教育のさらなる改善を目指して、学校経営に積極的に取り組んでいる様子をうかがうことができた。研究分科会・分散会の研究協議内容の報告をもとに、次の二つの視点から振り返ってみる。

1 大会副主題について

各分科会・分散会では、「夢・目標、かかわり合い」という子供の学びの姿から、「生きる力」をはぐくむ教育を実現できる校長の経営力の在り方が活発に議論された。

自尊心感情を含む自信と誇りがもてる魅力ある学校づくりや、これを支える学ぶ楽しさや喜びを実感できる教育課程の編成と授業の工夫、成就感・満足感を味わう機会を教育活動全体で数

多く体験させること等について、具体的な提案や協議がなされ、子供の夢や目標をはぐくむ学校経営の在り方が議論された。多くの分科会・分散会で、学校や地域の特性を活かしたかかわり合いを豊かにする体験活動を教育課程の中に意図的・計画的に位置づけ、家庭や地域との連携を深めた創意ある魅力的な学校づくりについて協議がなされた。このことによって、豊かな知恵やコミュニケーション能力・規範意識等の豊かな人間性と社会性、そして今求められている「人間力」の基盤となる「生きる力」を一層はぐくむことにつながると考える。

2 校長の役割と指導性について

岡山大会では、発表者に校長としての取組を意識した原稿作成を強くお願いした。研究協議においても、学校の在り方や校長としての役割、指導性を究明することを研究協議のテーマとしてお願いした。各分科会・分散会では、校長会が一枚岩となる成果を得た発表や校長の指導性・役割を究明する提案・協議が多く見られ、校長会の研究大会としての趣旨が十分浸透していることを実感した。

いくつかの分科会・分散会では、プロジェクトを組んでの組織化等、組織としての学校力向上の大切さが話題となった。校長自身が夢をもち、目標を定めてリーダーシップを発揮すること、教職員・保護者・地域が夢・目標を共有することの重要性が話し合われた。

社会が多様に変化する現在、これからの教育には、子供が直面する一層困難な課題を、自ら乗り越えていく力を育てていくことが求められている。岡山大会の成果と課題から、一層たくましく生きる日本人の育成を目指して、平成20年度からの新しい研究主題が示す方向に向かって、「夢・目標」をもって研究実践を重ね、その成果を次期、香川大会で情報交換できることを期待する。

研究発表していただいた校長先生方、そして熱心に協議して下さった先生方に、心より感謝申し上げ、岡山大会研究協議のまとめとする。

大会宣言

全国連合小学校長会は、結成以来小学校教育の推進のため、真摯な研究と実践に努め、着実に成果を上げてきた。

21世紀の今日、時代の要請と国民の信託に応え、新しい時代の義務教育を創造していく視点から、第54回北海道大会より、大会主題「新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる心豊かな日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を掲げて研究と実践を重ね、開かれた学校づくりの推進やマネジメントの考え方を生かした学校経営等、多くの成果を上げてきたところである。岡山大会は、本大会主題の研究をまとめ、次期大会主題「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に発展させる大会である。

今、社会は激動の時代を迎えている。この新しい時代を生きぬく子供には、社会がどのように変化しようとも心身ともに力強く未来を切り拓いていく力が必要である。

そのためには、夢や目標を持ち続け、自然や社会、人、文化に積極的に働きかけて、自他を豊かにするとともに、自己・他者・環境との「かかわり合い」を深め、共生社会の実現を目指す担い手としての子供を育てなければならない。また、教育改革が進められる中で、生きる力を実社会との関係でより具体化し発展させるために「人間力」の育成を目指す方向も示されており、主体性・自律性、自己と他者との関係、個人と社会の関係等にも目を向けながら、生きる力の更なる育成を目指していくことが重要である。

私たち校長は、確かなビジョンを持ち、経営手腕を発揮して、岡山大会における副主題「未来に夢を抱き、かかわり合いを深めながら生きぬく子供の育成」に向けて、国民の信頼に応える小学校教育の推進に全力を傾注しなければならない。

ここに、第59回全国連合小学校長会研究協議会岡山大会の総意に基づき、次の決意を表明し、その実現を期する。

記

- 一、新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる心豊かな日本人の育成
- 一、未来に夢を抱き、かかわり合いを深めながら生きぬく子供の育成
- 一、確かな学力の定着と向上を図り、個性を生かす創意ある教育課程の編成・実施・評価と改善
- 一、道徳教育を中核に、命の尊厳を重視した心の教育の一層の充実
- 一、学校の自主性・自律性の確立と家庭・地域社会との連携の促進
- 一、安全で安心できる教育環境づくりの一層の推進
- 一、校長自らの研鑽と教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の充実

右、宣言する。

平成19年11月9日

第59回全国連合小学校長会研究協議会岡山大会

シンポジウム

『夢・目標、かかわり合い』

(要旨)

シンポジスト

大原美術館理事長 大原謙一郎氏
国連登録NGO AMDA代表 菅波茂氏

コーディネーター

全連小調査研究部長 向山行雄

向山：岡山県の歴史的教育風土を通して、教育県として、岡山の教育が培われてきたのだと思う。そのような中でも、岡山県の教育には、岡山県なりの課題があり、子供たちに「夢・目標、かかわり合い」を形成していかなければならない。まず、シンポジウムのテーマ「夢・目標、かかわり合い」ということについて、お二人の先生方からお話をいただけたらと思う。



大原：「倉敷から、文化と世界と子供たちを考



える」ということで、話をしたい。ここには、質の良い日本と世界の出会いがある。そして、全国各地の町や村は、メッセージをもっている。倉敷は、その中の一つである。この町には、かつての商人・商家の世界があり、その中

にあって大原美術館は、世界の心を伝えている。二百数十年前の商人の家の心意気と世界の美術品がうまくマッチしている。「質の良い日本と世界の出会い」をメッセージとしてもっている。美しい町で美しく暮らしていた当時の町衆の「意地と見栄と我慢」がいろいろな所に見え隠れしている。例えば、教育でも商家の教育をしていた。町衆がクリエイティブな子供を育てていたことを私たちに教えてくれていると思う。

21世紀は、20世紀の物質文明を卒業し、心豊かな時代がつくられると思われたが、世界では、貧困・破壊・人口問題等が起きている。この諸問題を人類が解決していくために、外交・軍事・交渉にどれだけの力があるのだろうか。町や村が、そこに住む人々が文化でお互いを分かり合おうというメッセージを発していくことが大事であると思う。21世紀の厳しい運命・課題に対し、文化的な相互理解・相互敬意のスタイルを心にもつことが大切である。そのためのお手伝いを、大原美術館は一所懸命にしたいと思う。

一番最初に出来た美術館は大原美術館だが、「最古参は最新鋭」として最新鋭の働きをしている。その中で、子供たちとの出会いも大事にしている。お手元に「大原美術館への小学生からの手紙」があるで、後ほどご覧いただきたい。
菅波：AMDAとは、アジア医師連絡協議会（設立当時）を意味するThe Association of Medical Doctors of Asiaの頭文字の呼称である。海外支部は、29カ国に広がっている。他民



族・他文化の人々の共存・共栄を考え、弱者存亡の危機を救うべく岡山県に本部を置き活動している。

「平和」を阻害するものに、紛争・貧困等があり、「夢」の反対が

「現実」である。今、アフガニстанは、国中が難民キャンプのような状況である。難民の子供たちの将来の夢は、学校の先生か医者になることである。残念ながら、知的好奇心が豊かでも、この子供たちには勉強し、将来先生や医者になる機会が与えられていない。子供たちの夢は、厳しい現実の裏返しである。しかし、難民キャンプの子供たちは、過酷な状況にあっても自殺することはない。彼らには、夢しかないのである。

私たちは、「相手の存在を認める」を人権の定義としている。「ありがとう」という言葉で相手の存在を認め、相手を必要としていることを伝えることが大事である。また、教育は、「意欲・能力」があれば「チャンス」が与えられ、「自己実現」ができるというフェアネスの原則が大事である。日本と正反対の状況下でも、子供たちは夢をもっている。これをどう実現するかが、私たちNGOの役割である。

さて、タリバンはバーミヤンを爆破したことを後悔しているが、彼らに「なぜ世界は、行政は、私たちの飢餓については無関心なのだ。」と質問され、返す言葉がなかったことがあった。今、人間と文化の両方への関心が必要である。また、相手の人権・尊厳・フェアネス・夢に対する対話も必要である。小学生に国際交流や貢献を伝えるのは難しいが、校長先生方に日本の将来がかかっていると思う。AMDAも、救える命のために、どこへでも行く。そして、岡山県で頑張りたい。

向山：倉敷から文化を見る。岡山に拠点を置いたNGO。岡山県の人物の「夢・目標、かかわ

り合い」の生き方が影響しているように思う。

菅波：明治における大原孫三郎は、国連においても、政策提言ができる人物である。第二次世界大戦の際、岡山は空爆を受けたが、倉敷は受けなかった。世界の文化財が、大原美術館が、結果的に倉敷市民の命を守ったのである。また、彼は、弱者のために倉敷中央病院もつくった。現在の倉敷は、孫三郎のコンセプトであるとも言える。国際社会では、アイデンティティのない人物は軽視される。郷土の参考となる人物や教育の原点を突き詰め、小学生の頃からモチベーションを引き出すことが大切である。

大原：世界を見て、今日のテーマ「夢・目標、かかわり合い」に通じる人間性・文化を感じた。夢というのは、難民の子供たちがそうであるように、身近な所から生まれる。自分たちの土地で生まれ育ったDNAがある。大原孫三郎、そして倉敷のDNAが生きている。大原美術館は、倉敷のDNAが生み出したものである。

それぞれの土地に育ったDNA、つまり「夢・目標、かかわり合い」は、人間性・文化を考える契機であり素晴らしいキーワードでもある。

質問者1：今の子供たちは、課題に追われている。文化の大切さを感じる一方、「文化に関する教育は、社会教育でいいのでは」という考え方がある。学校教育での意義付けを教えてください。

大原：震災直後に大原美術館を訪れ、児島虎次郎の絵に癒されて帰られた方がいる。神戸や新潟の復興に努力された方々は、「自分たちが、文化に支えられていることをしみじみと学んだ。」と言っていた。社会教育とか公教育に文化を任せればいいということではない。学校と社会のコラボレーションが大事である。公教育では、社会とのかかわり合いの中で文化について育てていただきたい。

質問者2：明治の初め、「Education」の訳について論争があった。大久保利通は、「教化」。森有礼は、「教育」と訳し今日に至っている。

今、マスコミ等は、学力についてしきりに言っている。「Education」の訳に基づいて、学校教育を改めて考えたい。

菅波：「Education」の原点は、「意欲・能力」であり、そして「チャンス」が与えられ、「結果」として現れるということだと思う。貧困対策においては、まず意欲をもたせることが難しい。人間の本性である「知りたい。役に立ちたい。」を育てることが大切である。また、相手の基本的な考えや文化に入っていくには、日本文化でもある「相互扶助」が必要である。そして、子供たちに「役に立ちたい。」という願いと意欲を育てていくことが大切である。

向山：最後に、シンポジストの皆様は学校教育と校長への期待をお話していただきたい。

菅波：校長は、組織のトップである。校長が何をやるかで、組織が決まる。そして、世界のアイデンティティとの共存は、「ありがとう」という言葉である。組織のトップは、この言葉の伝道師である。トップの美学は、「気迫と一線（進退）を決めていること」にある。このことで、人がついてくると思う。

大原：日本の8割から9割の人々は、校長の味方である。校長は、教育者と同時に経営者である。経営とは、目標に向かい「人・物・金」をもっとよく働けるように組み合わせることだと思う。「ありがとう」という言葉は、その内容にある。学校によって使命は異なるが、その内容をしっかりとまとめ、先生方と共有することが大切であると思う。

向山：日本の国民の大部分は、校長の味方であるというお話をいただいた。これを受け止め、「夢・目標、かかわり合い」を校長自ら実践していただきたい。

閉 会 式

- | | | |
|---|--------|--|
| 1 | 開 式 | |
| 2 | あいさつ | 池田芳和 大会会長
牧野泰三 大会実行副委員長
森 正司 次期開催県代表 |
| 3 | 閉式のことば | 西林幸三郎 大会副会長 |

第197回 理 事 会

11月7日(水)午後1時45分開会

ホテルグランヴィア岡山「フェニックス」

進行 齋藤庶務部長

1 開会のことば

小滝副会長

2 会長あいさつ(要旨)

池田会長

①三地区対策調研連絡協議会が終わった。対策では人事考課制度について情報交換をした。一番問題になったのは評価の客観性であった。正確な評価の仕方については、まだまだ課題が残っている。また処遇に反映するのであればなおさらその基準が明確でなければならない。ところが人事考課が導入され急速な動きが続いていて、校長の十分な説明がないまま考課制度が進められている状況なので、多くの先生方に理解が十分行き届いていないということが起こっている。たとえば情意領域の基本的な要素として規律性、責任性、協調性、積極性が必ず入っているが、何をベースに考えていくかということになると、規律性、責任性がなければならない。そこがクリアされて協調性、積極性がある。規律性、責任性を度外視して教員の仕事はありえない。このあたりの説明が十分行き届いていないままなので評価がアンバランスになるということが起きている。その部分を十分研究していく必要がある。

特別支援教育については地方交付税の使い方が各県でばらばらで、進捗状況は全体では必ずしもうまくいっていない。

教育課程の来年度予算要望についても校長会として展望と計画が十分に整っていない状況がある。今年度中に学習指導要領が告示されると来年度1年間はその主旨の徹底、その後移行措置となるが、どのように移行措置を進めるかについては来年度の研究になる。それには予算が必要なので、各県教委なり市区町村教委が予算をきっちり取っていないければ仕事ができないことになる。その点についての校長会からの諮問・意見も必要だと考える。学習指導要領は3月に告示されるということなので今後意見を十分に言っていきたい。

②学力・学習状況調査であるが、基礎・基本の定着率は比較的高いという結果である。しかし、課題も多く、文科省にはその課題を正確にとらえてバックアップしてもらわなければ困ると考え、校長会として日本教育新聞に次のコメントを載せた。

- ・当初の予定より遅れての公表となったのは残念である。

- ・学力・学習状況の実態の一部が明らかになったのは意義がある。

- ・学校としては本来の目的に沿って結果を受け止め、児童の意欲を喚起し、一人一人に応じた基礎的・基本的な内容の定着を図り、小学校課程を修了させたい。

- ・結果の考察を通じて今後の指導の在り方や指導計画の見直しを図るとともに保護者とも連携していく。

- ・今回の結果から基礎的・基本的な知識・理解の内容を活用していく力の育成について研究していきたい。

- ・教育行政には表面的な受け止めでなく、地域の実情を十分考慮し、教育諸条件の整備をしてもらいたい。

分析の中で子供の学習状況と学力の関係にはある程度相関がはっきりしたが、少人数や習熟度等、学校がこれまでやってきた努力について子供たちの学力との相関があまり示されていないのは残念である。なぜなら、「学校は努力しているけれど、人がもっと要るのだ。だから付けてほしい」という状況にあるのに、今は基礎・基本だけでいいのだということになれば、基礎力が付いたという調査結果から、人数は増やさなくていいだろうということになってしまう。今後要望していく必要がある。

③中央教育審議会教育課程部会がまとめをしているが、学習指導要領の大事なところを押さえておく必要がある。学校教育法30条2項に「生きる力」の主旨が規定されている。だか

ら、今後その定義は簡単には変わらない。これに向けて現場がどう取り組んでいくかが求められる。

授業時数の表をお示ししたが、全学年一コマは増えている。ヒアリングの際に全連小としても意見を述べていきたい。

教員免許更新制についてもワーキンググループの報告に対して意見を述べていきたい。

- ④文科省の予算要求については財政制度等審議会の反対がある。全連小としても意見を言っていくが、各都道府県・区市町村の教育長会、教育委員会と連携しながら予算獲得に向けて運動していきたい。働きかけをお願いしたい。
- ⑤明日からの岡山大会では、校長の仕事として非常に重要である、かかわり合いを大事にするということや子供たちに夢を与えるということについての研究協議が十分行われるようお願いしたい。シンポジストの木原光知子さんが急逝された。ご冥福をお祈りしたい。
- ⑥全連小事務局移転について審議願いたい。

3 前事務局長へ感謝状贈呈 白石裕一氏

4 報告 司会 西林副会長

- (1) 会務・事業・活動の概要 齋藤庶務部長
- (2) 会計 太田会計部長
・基金管理状況・負担金納入状況
- (3) 研究大会について
 - ・岡山大会について 松原大会実行委員長
 - ・香川大会について 森香川県会長
開催期日：平成20年10月23日～24日
新大会主題の下「豊かな知性と健やかな心身をもち、夢に向かってチャレンジする子供の育成」を副主題に研究大会を行う。
- (4) 教育関係予算に係る要望活動について 塩澤対策部長
- (5) その他
 - ・海外教育事情視察について（報告） 齋藤視察団副団長
 - ・日韓教育文化交流について（報告） 向山調研部長

5 議事 議長 西林副会長

- (1) 事務局移転問題に係る基金の一部とりくみについて 池田会長
<承認>

6 情報提供・交換 司会 佐藤常任理事 「教育課程の基準の改定の方向をうけて」

・英語活動等をめぐっての各県の取組状況

調研部長 三地区調研担当者会議で「新教育課程への対応上の課題」が話し合われ、①授業時数増への対応と同時に、②小学校における外国語活動の円滑な実施が話題になった。

外国語活動実施には①ALT配置への予算措置②優秀なALTの人材確保③教員の負担感と指導法が確立されていないことや指導の未熟さへの保護者の不満などの課題が考えられる。

福岡 21の調査校のうち18校が全学年で実施。5～10時間が多い。ほとんどが担任とALTでの指導。地域ボランティアのALTもある。担任の力量が十分ではないので外国の方中心の指導となっている。1月25、26日大牟田市で開かれる全国英語活動実践研究大会で担任を中心とした英語活動の実践発表がある。

大分 各学校にばらつきがあり、カリキュラム、教材等にも課題がある。本校は年間45日授業公開し、ALTを市教委から派遣してもらうことにした。夏季休業中に1日ワークショップを開催し各校に情報発信している。公開だけでなく学期1回研究協議もしている。「言語力」をつける上で、挨拶の時も簡単な英語で気持ちを伝えるよう指導している。

東京 豊島区では1、2年生12時間、3、4年生20時間、5、6年生25時間ALTが派遣されている。区独自のカリキュラムを3年前から作り毎年改訂し全教員に配布している。また、担任対象の英語活動の研修をALTといっしょに夏季休業中に実施している。

調研部長 本校は①大学の先生の講義②外国人のALTとスーパーバイザーによる研修③先進校の担任による研修を実施したが、最も効果があったのは③だった。先進校のノウハウを聞くことは大事なことだ。

7 連絡・その他

- (1) 広報部より 青木広報部長
- (2) 新研究主題について 大内事務局長

8 閉会のことば 小滝副会長